

本機を使用される前に必ずお読みください。

---

**WAGNER**

WZシリーズ高圧洗浄機

**WZ15-150R**

**取扱説明書**

**日本ワグナー・スプレーテック株式会社**

# - 目 次 -

§ 1	構成と名称	1
§ 2	製品の仕様・諸元	2
§ 3	安全にご使用いただくために	3
§ 4	ご使用前の点検と確認	5
§ 5	作業手順の説明	7
§ 6	使用後の注意点	10
§ 7	保守点検	12
§ 8	点検整備表	16
§ 9	トラブルシューティング	17
§ 10	製品の保証について	22

## 巻末部品分解図

 印付きの下記マークは、安全上特に重要な項目ですので必ずお守りください。

### 危険

適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険性が極めて大きいことを示します。

### 警告

適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険が存在することを示します。

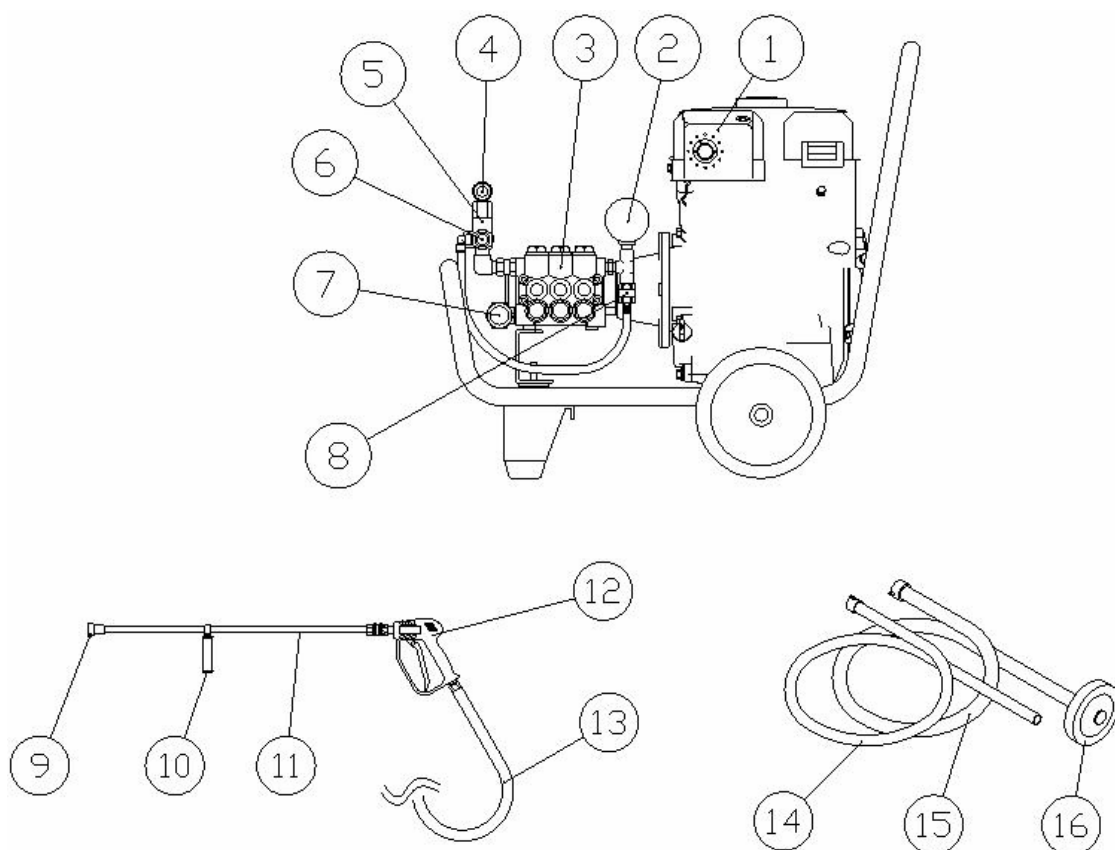
### 注意

安全な取扱いに対する助言、あるいは適切な事前注意を払わなかった場合に、傷害または製品の重大な破損に至る可能性があることを示します。

## § 1 構成と名称

当機（WZ15-150R）は以下の部品で構成されています。

- |                                 |               |
|---------------------------------|---------------|
| 1 . エンジン EX270D(オイルセンサー付)       | 9 . ノズル 1556B |
| 2 . 圧力計 60 x 40MPa              | 10 . グリップ     |
| 3 . ポンプ UH2014                  | 11 . ランス      |
| 4 . 出吐口 SUS 加 <sup>ろ</sup> 3T5F | 12 . 洗浄ガン     |
| 5 . 背圧式アンローダー VB9               | 13 . 高圧ホース    |
| 6 . 余吸口 G1/2M                   | 14 . 余水ホース    |
| 7 . 吸水口 G3/4M                   | 15 . 吸水ホース    |
| 8 . 自動エア抜き弁                     | 16 . 吸水フィルター  |



## § 2 製品の仕様諸元

### 製品本体仕様・性能

製品名	・ WZ15-150R
最大吐出圧力	・ 15 MPa
最大吐出量	・ 15 L/min
使用ノズル	・ 1556B
給水方式	・ 吸余水式
吐出口	・ SUS 304 3TSF
余水口	・ G1/2M
吸水口	・ G3/4M
動力駆動方式	・ ホロ - シャフト直結
始動方法	・ リコイル式
外観寸法	・ 737L × 480W × 670H
製品重量	・ 約 43Kg


### エンジン仕様

型式	・ EX270D(オイルセンサー付)
定格出力	・ 7.0/3600 (PS/rpm)
最大出力	・ 9.0/4000 (PS/rpm)
使用潤滑油	・ 自動車用エンジンオイル SE 級以上 SAE10W-30
オイルセンサー	・ 付 (オイル量が不足するとエンジンは止まります。)
オイル量	・ 1.05L
使用燃料	・ ガソリン (無鉛)
燃料タンク容量	・ 6.0L

### ポンプ仕様

型式	・ UH2014(INTER PUMP)
使用潤滑油	・ 自動車用エンジンオイル SE 級以上 SAE10W-30
オイル量	・ 0.4L
調圧方式	・ 背圧式アンローダー VB9

### § 3 安全にご使用いただくために(製品の始動前に必ずお読みください。)

 **警告**：人体等への安全のために、下記の事項を厳守してください。

#### 1. 高圧力に注意

高圧噴流は大きな洗浄能力を持つと同時に、取扱いを間違えますと非常に危険です。取扱いには十分御注意ください。又、怪我をした場合は、直ちに医者の手当てを受けてください。

ノズル(噴射口)を、絶対に人や動物にむけないでください。

噴射前や噴射中に、ノズルの前に手などを当てないでください。

作業中は、噴射水が作業者にかからないよう十分注意してください。特に、ゴミ等が目に入らない様保護具を装着してください。

装置から水漏れが発生した場合は、**その部分には絶対に触れないでください**。直ちに装置を止めて修理してください。

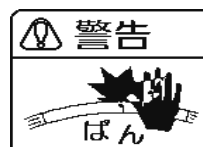
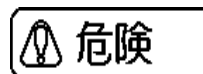
噴射作業中は、ガン及びランスをしっかりと支持し、反力で跳ばされないよう注意してください。

高圧ホースは、破裂(バースト)の可能性があります。**作業中ホースが体に密着しないよう注意してください**。

高圧ホースは、外皮が傷んでいたり折れ曲がった(キンクした)りした状態で使用しますと、**破壊の危険性があります**。新しいホースに交換して下さい。

使用后(停止後)もホース内に残圧が残っております。ガンの引き金を引いてホース内の残圧を逃がしてください。

接続金具に錆、破損等がないか確認してください。



#### 2. 作業開始時や作業中に、異音が発生していないか注意

作業開始時や作業中に異音を感じたら、直ちに作業を中止し、原因を調べてください。原因がわからない場合は、メーカーに問い合わせるなどして、安全が確認できるまでは運転を見合わせてください。機械の異常損傷や作業事故につながる可能性がありますので、十分にご注意願います。

#### 3. 引火性ガスに注意

引火性ガス、爆発性の可燃物(アセチレン、プロパン、シンナー、ガソリン、塗料)のない場所で使用してください。もし危険物のそば等で使用して事故が発生すると、人身や建造物に重大な損害を与えます。



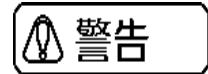
#### 4. 燃えやすい物は近づけない

マフラーの排気口付近は高温になります。わらくず、紙くず、木くずなどの燃えやすいものや、ガソリン、油脂類、石油製品、火薬などの危険物は近づけないでください。火災や爆発の原因となります。



### 5. 燃料系統に漏れはないか？

使用前に、燃料系統に漏れはないかどうかを点検してください。もし燃料が漏れている場合は、直ちに修理してください。安全が確認されるまでは絶対に運転してはいけません。



### 6. 燃料補給時の注意

燃料の補給はエンジンを停止させた状態で行ってください。燃料がこぼれた場合はきれいに拭き取ってから始動してください。また給油中はタンク内から揮発ガスが立ち昇っていますので、くわえタバコ等は厳禁です。



### 7. 換気に注意

エンジンの排気ガス中には人体や生物に有害な成分が含まれています。屋内、トンネル内など換気の悪い場所での使用はおやめください。やむを得ない場合は、排気ガスの外部放出等、十分な換気措置を施してください。



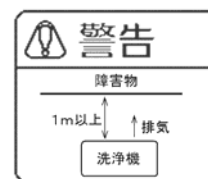
### 8. 高温注意

運転中や停止直後は、エンジン部分が非常に高温になっていますので、接触等による火傷などがない様ご注意ください。さらに、マフラーに直接触れますと大きな火傷につながりますので十分に注意してください。



### 9. マフラーの排気口の向き

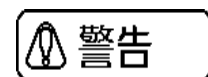
マフラーの排気の方に障害物(壁・塀など)が来ないように設置してください。どうしても障害物が来てしまう場合は、1 m以上離して下さい。マフラーの排気口と障害物が近づき過ぎますと火災の原因となります。



### 10. 燃料コックの閉め忘れに注意

燃料コックは、使用時以外は閉じて置いてください。

燃料コックを開けたままにしておきますと、キャブレターの部分から燃料漏れを起こす可能性があります。燃料漏れが発生しますと、床面を汚すだけでなく、火災発生の可能性もあるため大変危険です。



### 11. 火気厳禁

洗浄機に、火種になるような物(タバコの火・焚き火等)を近づけないでください。万が一ガソリンが漏れていると火災につながる恐れがあります。



### 12. 水漏れに注意


高圧洗浄機は、水が漏れる可能性が常にあります。

洗浄機の周囲に、濡れて困るものは置かないでください。

### 13. 作業に適した服装で

体を保護するために、長袖、長ズボン、ゴム手袋、滑り止めの付いた履物を着用して作業をしてください。保護メガネも使用してください。

## § 4 ご使用前の点検と確認

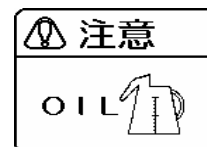
 **注意：機械を壊さないために、下記の注意事項をお守りください。(重要)**

### 1. ポンプオイルのレベル及び汚れのチェック

オイルが規定量入っていない状態で運転しますと、クランク部で焼付を起こします。始動前にポンプのレベルゲージにてオイル量をチェックしてください。レベルゲージの中心位置が規定量です。不足している場合はポンプ上部の給油口よりオイルを補給してください。

また、オイルの汚れがすすむと、ポンプ焼付につながります。(オイル点検不備によるポンプ焼付はユーザー責任になりますのでご注意ください。)

§7-2「ポンプオイルの交換」を参照して交換を行ってください。



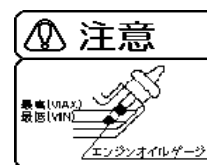
### 2. エンジンオイルのレベル及び汚れのチェック

当エンジンは、オイルセンサー付ですので、オイル量が少なくなるとエンジンはかからなくなります。

作業開始前にレベルゲージでチェックして適量を入れてください。

また、オイルの汚れがすすむと、エンジン焼付につながります。(オイル点検不備によるエンジン焼付はユーザー責任になりますのでご注意ください。)

§7-3「エンジンの点検」を参照して点検、交換を行ってください。



### 3. 川水・泥水等の使用禁止 使用液体の注意

気密性の高い高圧プランジャーポンプは、砂泥、金属粉等には非常に弱いポンプです。これらスラッジ分の混入した水を使用しますと、ポンプ内のバルブ、パッキン、プランジャー等を早期に傷めます。清水(水道水)を使用してください。

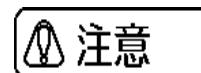
特に川水、井戸水、工業用水、農業用水等は、微細なゴミが混入していることがありますので、摩耗が早い場合は、フィルター等の対策を。

ポンプの使用液体については、次の事柄にご注意ください。

PH4～10の範囲内で御使用ください。範囲外の酸、アルカリを使用しますと、ポンプ、ホースを損傷させます。

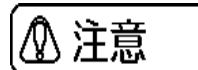
研磨的な作用のある液体を使用しますと、ポンプ、ホースを損傷させます。

0～60の範囲を越える液体を使用しますと、ポンプ、ホースを損傷させます。特に高温水を使用した際、ホース等が破裂し、大変危険ですので絶対にやめてください。



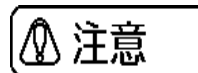
#### 4. ポンプの空運転の禁止

ポンプに水が供給されない状態で、**連続1分以上の空運転はしないで**ください。空運転することによりプランジャー・パッキン部が高熱になり、**損傷します**ので御注意ください。



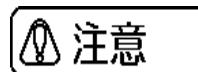
#### 5. 使用燃料について

エンジンの使用燃料は、**無鉛ガソリン**に限ります。新しいガソリンをお使いください。購入後3ヶ月を経過した古い燃料の使用は、キャブレター内での燃料の詰まりや、シリンダー内でのカーボン発生等により、エンジンの故障の原因になります。



#### 6. 圧力は規定値又は、それ以下で使用する

噴射圧力が規定値（本品は 15MPa）を超えている時は、ノズルの適合性を確認したうえ、アンローダーのノブで**圧力を規定値まで下げて**ください。そのまま使用しますと、装置が破損する恐れがあります。



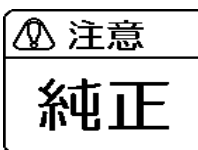
#### 7. ポンプ内の残水の凍結の心配はないか？

ポンプ内が凍結した状態でポンプを起動しますと、氷の破片によりポンプ内部が破損します、凍結の心配があるときは**解凍を確認してから起動**してください。（詳しくは§6 使用後の注意点をご覧ください）



#### 8. 純正以外の部品は、原則として使用しない

ガン、ホース、ノズル等は、必ずポンプ圧力に適合した**純正部品**を使用してください。万一、純正以外の部品を使用する場合は、安全性を十分に調査、確認をしてからにしてください。



#### 9. 機械の設置

下記の事柄に注意して機械を設置してください。

狭いところ、壁、塀等の近くで機械を運転しますと、熱効率が悪くなり本機を損傷させますので、**障害物がない換気のよい**ところで運転してください。

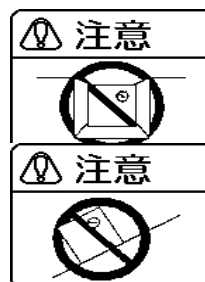
**急な傾斜地で運転**しますと、オイルが十分な潤滑をできず、**ポンプを損傷**させますので、平坦な安定した場所で運転してください。

発電機、排熱ダクト等の排気側に本機を置きますと、排気熱で本機を損傷させますので、熱の影響のない涼しい場所に設置してください。

**本機は防水型ではありません**ので、雨や雪、跳ね返った噴射水や霧等がかからないように設置してください。故障の原因にもなりますのでご注意ください。

湿気が多い場所で使用しますと、結露により故障、腐食等の原因となりますので、湿気の少ない場所でご使用ください。

**真夏の炎天下で本機を置いて作業**しますと、**オーバーヒート**を起こし本機の損傷の原因となります。日陰など風通しの良いところに本機を置いて作業してください。





## § 5 作業手順の説明

### 1. 運転準備

燃料給油口からきれいな燃料(無鉛ガソリン)を入れてください。

エンジンオイルとポンプオイルの量、及び汚れのチェックをしてください。

オイル点検不備による焼付きは、ユーザー責任になりますので十分ご注意願います。

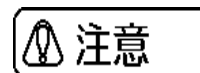
吸水ホースの先端に、吸水フィルターを取り付けてください。

本体の吸水口の小フィルターにゴミがついていないか確認し、ついている場合は除去してください。

吸水ホース・余水ホースをポンプ本体に接続し、吸水フィルター部を水タンクに入れてください。

特に、吸水ホースの本体部への締付け不良は、ポンプのエアかみを引き起こし、異常振動、圧力低下の原因となります。しっかりと接続してください。

高圧ホース、ガン、ランスを、構成図を参考にポンプ本体に接続してください。



### 2. エンジン始動

燃料コックを開いてください。(レバー下向き)

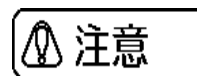
エンジン側面にある始動スイッチを『ON』に合わせてください。

スロットルレバーを半分ほど開き、チョークレバーを閉じます。

- ・寒い時やエンジンが冷えている時は『全閉』にします。
- ・暖かい時やエンジンが温まっている時は『全開』もしくは『半開』にしてください。

リコイルスターターのかみ合いをあわせて一気に引っ張ります。エンジンがかかりましたら、エンジンがかかりましたら、エンジンの調子を見ながらチョークを戻してください。

**チョークをいっぱいまで戻さないでシリンダー内で不完全燃焼を起こしエンジンが止まり、再始動も困難になります。**



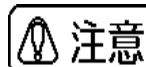
詳しいエンジン取り扱いにつきましては、別冊『エンジン取扱説明書』をよくお読みください。

### 3. 運転開始・エア抜き

エンジンが始動しましたら、低速で1～2分程暖気運転をしてください。この時、自動エア抜き弁により自動的にエア抜きされます。

余水ホースから水が勢いよく出ていれば吸水しています。

吸水してない状態で、連続して1分以上の空運転はさけてください。**摩擦熱によりポンプ内部（パッキン，プランジャー）の破損につながります。**



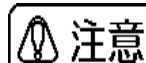
#### 吸水していない場合

吸水ホース先端のフィルターを外し、水道蛇口に押し当てて強制給水させてください。このときエンジンはスロー状態で運転してしてください。一旦水が吸水されれば正常になっております。（長期間使用しないと、バルブ部が乾燥して密着状態になり、水を吸水しなくなることがあるためです。）

上記の方法でも吸水しない場合『§9トラブルシューティング』を参照して点検してください。

スロットルレバーを高回転側に切り換え、ガン，ランスを手でしっかり保持したうえで、ガンのトリガーを引いて高圧水を噴射させ、作業を開始してください。

高圧水が噴射されないときは、『§9トラブルシューティング』を参照して点検してください。



圧力が規定値より高い場合は、**規定値以下になるようアンローダーにて調節**してください。

以上、問題なければ洗浄作業を行ってください。

作業を中断する時は、必ずエンジンを停止させ、圧力を逃がしてください

#### 4. 運転終了

作業を終えガンを閉じた後、エンジン回転数を下げて 1～2 分間アイドリングしてください。

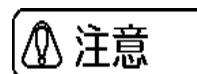
高回転のままエンジンを停止しますとアフターファイヤーを起こす場合があります。

エンジンをかけた状態で吸水ホースを水槽から引き上げて、吸水ホース・ポンプ内の水を排出してください。

排出し終わったら、スイッチを『OFF』にします。

エンジン停止後は必ず、ガンを引いてホース内の残圧を逃がしてください。このとき残圧がホース内に残ったままにしておくと、不用意にガンの引き金を引いた際、残圧による被害を起こしかねませんので十分ご注意ください。

燃料コックを必ず閉じてください。(レバーを横向きに位置させる)



##### **燃料コック閉じ忘れに注意**

使用時以外は、燃料コックを閉じて置いてください。燃料コックが開いていると、燃料漏れを起こす可能性があり大変危険です。

特に、運搬時は振動でキャブレター部から燃料漏れを起こします。

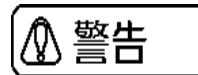
必要に応じてホース等を取り外して作業を終了してください。

## § 6 使用後の注意点

### 1. 燃料コックの閉忘れ

使用時以外は、燃料コックを閉じて置いてください。燃料コックが開いていると、燃料漏れを起こす可能性があり大変危険です。

特に、運搬時は振動でキャブレター部から燃料漏れを起こします。



### 2. 寒冷時の凍結防止方法

寒冷期にポンプ内に水を入れたままにしておくと、凍結によりポンプの破損につながります。気温が 0 以下にならない所で保管する、または下記の方法で凍結を防止してください。

#### コンプレッサーで、ポンプ内の水を完全に抜く。

ポンプの空運転だけでは、完全に水を除くことはできません。

作業終了後、吸水・余水・吐出ホースを取り外し、吸水口にエアガンを押し当てて（布等で空気が漏れるのを押えながら）空気を送り込んでください。吐出口から水が出なくなるまで続けてください。

#### ポンプ及びボイラーに不凍液を循環させる。

##### 不凍液の循環方法

【推奨不凍液】・・・自動車用不凍液（LLC）

吸水・余水ホースを水タンクから引き上げ、ポンプ内の水が無くなるまでガンより噴射させます。

長時間の空運転は、ポンプのパッキン・プランジャーを傷めますので、2分以上はしないでください。

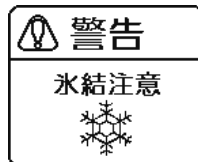
高圧水が出なくなったところで一旦機械を停止させ、ガンを高圧ホースから外してください。

吸水・余水・吐出ホースを、規定値に希釈した不凍液（30～60%の濃度）を入れた容器の中に入れてください。機械を運転し、高圧ホースから不凍液が出てきたら吸水ホースを容器の中から引き上げ余分な不凍液を排出してください。

#### ポンプヘッドに凍結防止ヒーターを巻く。

帯状のヒーターをポンプヘッドに巻きつけて、電源に接続すれば凍結防止になります。

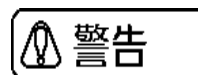
ヒーター部はヘッドに密着させてください。サーモスタット付のものはサーモスタット部もヘッドに密着させてください。



#### 《凍結してしまった場合》 重要

機械を暖かい場所に置いたり、ポンプヘッドにお湯を徐々にかけるなどして、時間をかけて解凍してください。

解凍するまでは絶対に運転しないでください。凍結したまま運転しますと故障に直結する原因となるばかりでなく、異常圧力が発生する可能性があり大変危険です。



### 3. 長期間使用しない場合（1ヶ月以上）

**燃料タンク・キャブレタ - 内のガソリンを抜いてください。**

ガソリンを入れたまま長期間放置しますと、燃料コック内のストレーナ、キャブレタ - 内部のジェット等の詰まりにより、始動不良や回転不調などを起こす原因となります。

**ポンプやホ - ス内の水を抜いてください。**

水が残ったまま長期間放置しますと、凍結や内部腐食を起こす原因となります。



### 4. 保管場所の注意

本機は防水型ではありませんので、保管の際は雨水が本機にかからないように注意してください。排気口から水が入ったり、スイッチ等に水がかかると、故障の原因となります。

## § 7 保守点検

### 1. アンローダーの調整について(重要)

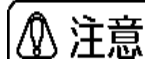
アンローダーの調圧ノブを回すと圧力調整ができますが、回し過ぎて規定圧力以上にならないようにするために、ストッパーが掛けてあり、一定以上回せないようになっています。

#### 注意

このストッパーは、工場出荷時に調節済みですので、必要のある時以外は、動かないようにしてください。

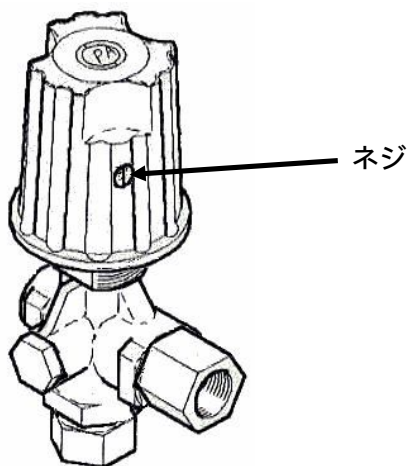
ストッパーを緩めて、調圧ノブを必要以上に締め込みますと、ガンのトリガーを放して噴射を止めた時に、**ポンプ内部が異常に高圧となり装置を破損させる**ことがありますので十分に注意してください。

再調整する場合は、下記の調整方法を厳守してください。

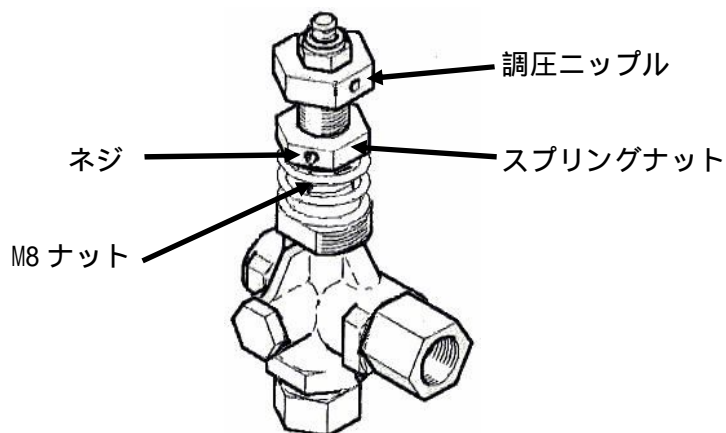
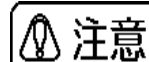


#### 《再調整方法》

アンローダーの調圧ノブを少し緩めてから、プラスチックノブの横のネジを+ドライバーで外し、プラスチックノブを取外してください。



スプリングナットの横のネジを 2.5mm の六角棒レンチを使用して緩め、調圧ニップルをフリーの状態にしてください。



調圧ニップルを少し緩めてからガンを噴射状態にして、圧力計で圧力を確認しながら、スプリングナットを徐々に締め込んでください。製品の規定圧力(15MPa)になったところで締め込むのをやめてください。

圧力が規定値圧力以上に上がらないように、スプリングナットをスパナ等で固定し、調圧ニップルを M8 ナットに当るまで締め込み、スプリングナットの横のネジで固定してください。

スプリングナットを締め込んでも所定値まで圧力が上がらない場合は、圧力の上昇が止まった所まで調圧ノブを戻してください。

この場合の圧力の上がない原因は他にありますので、吸水系統(吸水口フィルターが目詰り、吸水ホース取付部のパッキンの不具合によるエアかみ他)、ノズルの摩耗、アンローダー内部の摩耗(オリング、バルブ、シート等)、ポンプ内部の摩耗(パッキン、オリング、バルブ、ピストン等)をチェックしてください。

プラスチックノブのネジ穴位置と調圧ニップルのネジ穴位置を合わせてはめ込みネジで固定してください。

§ 9 トラブルシューティング参照

## 2. ポンプの点検

ポンプオイルの交換

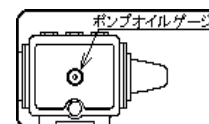
【交換時期】・・・初回：50 時間運転時 以後：100 時間運転毎

【推奨オイル】・・・自動車用エンジンオイル SE 級以上 SAE10W-30

【オイル量】・・・約 0.4L

オイルはポンプオイルゲージの中心位置に合わせてください。

1 L と 4 L 缶を用意しておりますのでお申し付けください。



Vシール・バルブの交換

(1) 長時間使用しますとピストン部のVシールが磨耗し、正常な圧力が出なくなり、ポンプ下部から水漏れすることがあります。この場合はピストン部のVシールをセットで交換してください。

(2) インタ - ミディエイトリングは、Vシール交換 2 回に 1 回の割合で交換してください。

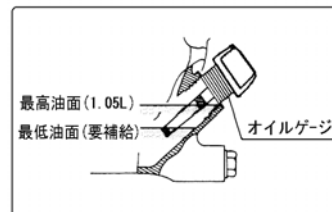
(3) バルブが磨耗しますと、圧力が変動します。この場合はバルブをセットで交換してください。

### 3. エンジンの点検

#### エンジンオイルの点検

エンジンオイルは、使用のたびに消耗しますので、使用前にはオイルゲージで毎回チェックしてください。(オイルゲージをねじ込まずに測定して、適正範囲にオイルを入れてください。)

本機は、オイルセンサーが付いていますのでオイルが少なくなるとエンジンがかからなくなります。特に、新品状態の時、消耗が早いので注意してください。



#### エンジンオイルの交換

エンジンオイルは、使用のたびに汚濁劣化しますので、定期的に古いオイルを全部抜いて新しいオイルに交換してください。汚れたまま運転すると、エンジン焼付につながります。

【交換時期】・・・初回：20 時間運転時 以後：50 時間運転毎

【推奨オイル】・・・自動車用エンジンオイル SE 級以上 SAE10W-30

【オイル量】・・・約 1.05L

エンジンオイルは使用しなくても劣化します。1 年以上経過したオイルは交換してください。

#### 点火プラグの清掃と調整

【清掃時期】・・・50 時間毎

【調整時期】・・・200 時間毎

【使用プラグ】・・・NGK B6HS 相当品

(1) プラグがカ - ボンで汚れている場合は、ワイヤブラシ等で汚れを落としてください。

(2) 電極間隙の広い場合は側方電極を曲げて 0.6~0.7mm に調整します。

(3) 汚れがひどい場合、電極部が摩耗して丸くなっている場合は交換してください。

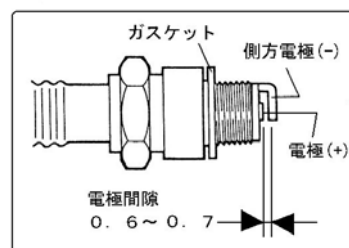
#### エアクリ - ナ - の清掃

【清掃時期】・・・50 時間毎

汚れがひどくなると、出力低下や始動不良などを起こす原因となります。

ホコリの多い場所で使用した時は、早めに清掃してください。

ウレタンろ過部は、洗油(白灯油)で洗浄後、よく乾かしてからエンジンオイルに浸し、固く絞ってから取り付けます



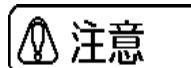
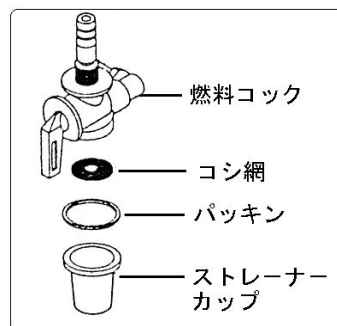


### 燃料ストレ - ナの清掃

【清掃時期】・・・100 時間毎

- (1) ストレ - ナカップ内に水やゴミがたまっていないか調べます。
- (2) ゴミ等がたまっている場合は、燃料コックを閉にしストレ - ナカップを左に回して外します。
- (3) ストレ - ナカップ内の水やゴミを除去し、コシ網に付着しているゴミも除去し、洗油(白灯油)で洗浄し本体に完全に締め付けます。

取り付け後は、燃料コックを『開』にして燃料漏れを点検してください。



## § 8 点検整備表

下表の時間を目安に各箇所の点検を行ってください。

時期	点検箇所	点検内容	参照	備考
毎回作業前	本体全体	水漏れ点検		
	エンジン	オイル漏れ点検	§ 4-2	
		オイル量・汚れ点検	§ 7-3-	
		燃料漏れ点検		
	ポンプ	オイル漏れ点検	§ 4-1	
オイル量・汚れ点検		§ 7-2-		
20 時間後	エンジン	初回オイル交換	§ 4-2 § 7-3-	
50 時間後	ポンプ	初回オイル交換	§ 4-1 § 7-2-	
50 時間毎	エンジン	オイル交換	§ 4-2 § 7-3-	
		点火プラグ清掃	§ 7-3-	
		エアクリーナー清掃	§ 7-3-	
100 時間毎	エンジン	燃料ストレーナー清掃	§ 7-3-	
	ポンプ	オイル交換	§ 4-1 § 7-2-	
200 時間毎	エンジン	点火プラグ調整	§ 7-3-	
500 時間毎	ポンプ	消耗品交換		
		(パッキン, バルブ)		
	アンローダー	消耗品交換		
		(パッキン, バルブ)		

エンジンオイル・ポンプオイル：自動車エンジンオイル SE 級以上 SAE10W-30

消耗品交換は圧力低下や水漏れ等、不具合が生じた時でも結構です。

## § 9 トラブルシューティング

### 1 .現象:エンジンは正常に回転し、普通に噴射しているが圧力が所定値まで上がらない。

高圧噴射の状態にして、余水ホースからの水量を調べてください。

#### A .余水の量が多い。

アンローダーの圧力調整不良

噴射の状態にして、圧力を調整してください。

アンローダーのバルブかシートの摩耗

バルブかシートが摩耗している場合は、両方の部品を交換してください。

アンローダーの異物による不良

アンローダーのバルブ・シート周辺に異物が付着している可能性がありますので、巻末の部品分解図を見ながら分解洗浄してください。

自動エア抜き弁の不良

自動エア抜き弁のピストン周辺に異物が付着している可能性がありますので、巻末の部品分解図を見ながら分解洗浄してください。

自動エア抜き弁のピストン部のOリングが損傷あるいは紛失している場合は交換してください。

#### B .余水の量がほとんどない。

吸水系統からのエア吸い込みによる不良（ポンプに水が十分供給されない。）

吸水ホースの接続を確認し、締め直してください。

接続部のパッキンが損傷あるいは紛失している場合は交換してください。

フィルターの目詰まり

吸水ホース先端の吸水フィルターに異物が付着していないか確認して下さい。

吸水ホースを外し、吸水口付いている小フィルターに異物が付着していないか確認する。フィルターの異物を除去してください。

ノズル口径の異常

摩耗により口径が大きくなっている恐れがあります。部品交換してください。

純正品以外の口径の大きいノズルが付いていないか確認してください。

ポンプの異物による不良

ポンプから高圧ホースを外し、ポンプを回転させた状態で、ポンプの吸水口に水道ホースを押しつけ強制給水させます。

上記で改善されない場合はバルブ部を外し、バルブに異物が付着していないか調べ、ポンプ内に残っている異物を水道水で洗い流してください。

ポンプ内部の不良

ピストン部のシール・Oリングまたは、バルブ・バルブシートが摩耗している場合、部品交換してください。

長時間の空運転でピストンが割れることがありますので確認してください。破損している場合は部品交換してください。

## 2. 現象：エンジンは正常に回転しているが、圧力がほとんど上がらない。

吸水しているか？高圧噴射状態にして、余水ホースから水が勢いよく出ているか調べて下さい。

### A. 吸水している。勢いよく出ている。

ノズルの目詰まり

ノズルを外して、エアブロー又は細い針金などで異物を除去してください。ノズル装着の前に機械を動かして捨吹きを行ってください。

アンローダーの異物による不良

アンローダーのバルブ・シート周辺に異物が付着している可能性がありますので、巻末の部品分解図を見ながら分解洗浄してください。

自動エア抜き弁の不良

自動エア抜き弁のピストン周辺に異物が付着している可能性がありますので、巻末の部品分解図を見ながら分解洗浄してください。

自動エア抜き弁のピストン部のOリングが損傷あるいは紛失している場合は交換してください。

### B. 吸水していない。勢いよく出していない

吸水システムからのエア吸い込みによる不良（ポンプに水が十分供給されない。）

吸水ホースの接続を確認し、締め直してください。

接続部のパッキンが損傷あるいは紛失している場合は交換してください

フィルターの目詰まり

吸水ホース先端の吸水フィルターに異物が付着していないか確認して下さい。

吸水ホースを外し、本体側ジョイント内部に付いている小フィルターに異物が付着していないか確認する。フィルターの異物を除去してください。

ポンプ内部の異物詰まり

ポンプから高圧ホースを外し、ポンプを回転させた状態で、ポンプの吸水口に水道ホースを押しつけ強制給水させます。

上記で改善されない場合はバルブ部を外し、バルブに異物が付着していないか調べ、ポンプ内に残っている異物を水道水で洗い流してください。

ポンプ内部の不良

ピストン部のシール・Oリングまたは、バルブ・バルブシートの摩耗している場合、部品交換してください。

長時間の空運転でピストンが割れることがありますので確認してください。破損している場合は部品交換してください。

### 3 . 現象 : 圧力が変動する。

吸水系統からのエア吸い込みによる不良 (ポンプに水が十分供給されない。)

吸水ホースの接続を確認し、締め直してください。

接続部のパッキンが損傷あるいは紛失している場合は交換してください

フィルターの目詰まり

吸水ホース先端の吸水フィルターに異物が付着していないか確認して下さい。

吸水ホースを外し、本体側ジョイント内部に付いている小フィルターに異物が付着していないか確認する。フィルターの異物を除去してください。

ポンプの弁の異物引っかかり。

ポンプから高圧ホースを外し、ポンプを回転させた状態でポンプの吸入口に水道ホースを押し付け強制給水させます。

上記で改善されない場合はポンプヘッドのバルブ部の六角を外し、バルブに異物が付着していないかを調べ、ポンプ内に残っている異物を水道水で洗い流してください。

### 4 . 現象 : 初期使用時からポンプに水が入ってこない。

吸水系統からのエア吸い込みによる不良 (ポンプに水が十分供給されない。)

吸水ホースの接続を確認し、締め直してください。

接続部のパッキンが損傷あるいは紛失している場合は交換してください

ポンプ内の吸入弁の固着。

ポンプ内の吸入弁のシート面は、鏡面状態になっているため、シート面の固着により水を吸い上げない場合があります。ポンプの吸水口に水道ホースを当てて勢いよく水を噴射して呼び水をしてやるとシート面が離れ、吸水するようになります。

### 5 . 現象 ガンを閉じても圧力が下がらない。または、ハンチングが起こる。

アンローダー背圧弁部の異常

背圧弁 ,スプリング ,Oリングが損傷している場合は交換してください。

アンローダーよりも後ろ側から水が漏れているとハンチングが起こります。

漏れている箇所のジョイント類の締め直しをしてください。

ガンから水が漏れている場合は、ガンの修理、または交換してください。

## 6 . 現象 : ポンプからオイルが漏れる。

オイルシールの摩耗・損傷。

オイルシールの摩耗・損傷によりオイル漏れが起こる場合があります。  
分解点検し、摩耗した部品を交換してください。

オイル注入量の過多

オイル量が規定量より多いとオイルが噴きだすことがあります。  
ゲージでオイル量を確認し、多すぎる場合はドレン口からオイルを抜いて規定の量(ゲージ中心位置)に調整してください。

## 7 . 現象 : ポンプから水が漏れる。

Oリング・シール類の摩耗、損傷。

Oリング・シール類の摩耗、損傷により水漏れしている場合は、部品交換して下さい。

ピストンの割れ

ピストンの割れにより水漏れしている場合は、部品交換してください。

## 8 . 現象 : エンジンが始動しない。

燃料コックが閉じている。

燃料コックを開にしてください。

燃料が不足している

燃料を給油してください。

燃料に水やゴミが混入している

燃料タンク・燃料ストレナーの水抜きと清掃をしてください。

エアクリナーの目詰まり。

エアクリナーを清掃してください。

点火プラグの汚れ・消耗

点火プラグの清掃してください。

消耗が激しい場合は交換してください。

オイルセンサーの作動

本機のエンジンにはオイルセンサーが内蔵されています。

オイル量が不足していたり、機体が傾いているとエンジンがかかりません。  
また、オイル量がオイルゲージ下限すれすれでは、エンジンがかかったりかからなかったりすることがあります。

オイル量が不足している場合は、オイルを補充してください。

機体が傾いている場合は、平坦な場所に設置してください。

**9 . 現象 : エンジンがすぐに停止してしまう。**

燃料ストレ - ナ - の目詰まり。

燃料ストレ - ナ - を清掃してください。

キャブレターの詰まり

キャブレターの掃除をしてください。

**10 . 現象 : エンジンの出力が落ちた。**

エアクリ - ナ - の目詰まり。

エアクリ - ナ - を清掃してください。

点火プラグの汚れ・消耗

点火プラグの清掃してください。

消耗が激しい場合は交換してください。

オイルセンサーの作動

本機のエンジンにはオイルセンサーが内蔵されています。

オイル量が不足していたり、機体が傾いているとエンジンが自動停止します。

オイル量が不足している場合は、オイルを補充してください。

機体が傾いている場合は、平坦な場所に設置してください。

## § 10 製品の保証について

当製品は、弊社の厳しい品質管理のもとに製造し製品検査を行なっております。万一、正常な状態にて使用して故障が発生した場合は、当製品の無償修理をもって保証とさせていただきます

製品の保証期間は、ご購入後1年間です。

但し、保証期間内でありましても、下記の場合の故障は、保証対象外となります。

1. 消耗品の磨耗による交換。  
ポンプ、調圧装置内のバルブ、パッキン類の磨耗。  
ノズル、高圧ホース、洗浄ガンのバルブの磨耗、ヒューズの交換。
2. 不適正ノズル(標準ノズルより小径のノズル)の使用、アンローダーの不適正調整(調圧ナットの締め過ぎ)による故障。
3. エンジンオイル・ポンプオイルの点検不備(オイル切れ、汚濁等)による故障。
4. 水質不良、凍結、純正以外の部品使用、ポンプの空運転等による故障。
5. 天災・火災・風水害・落雷・その他不可抗力による故障・破損。
6. 「取扱説明書」によらない使用による故障。

### 品質保証書

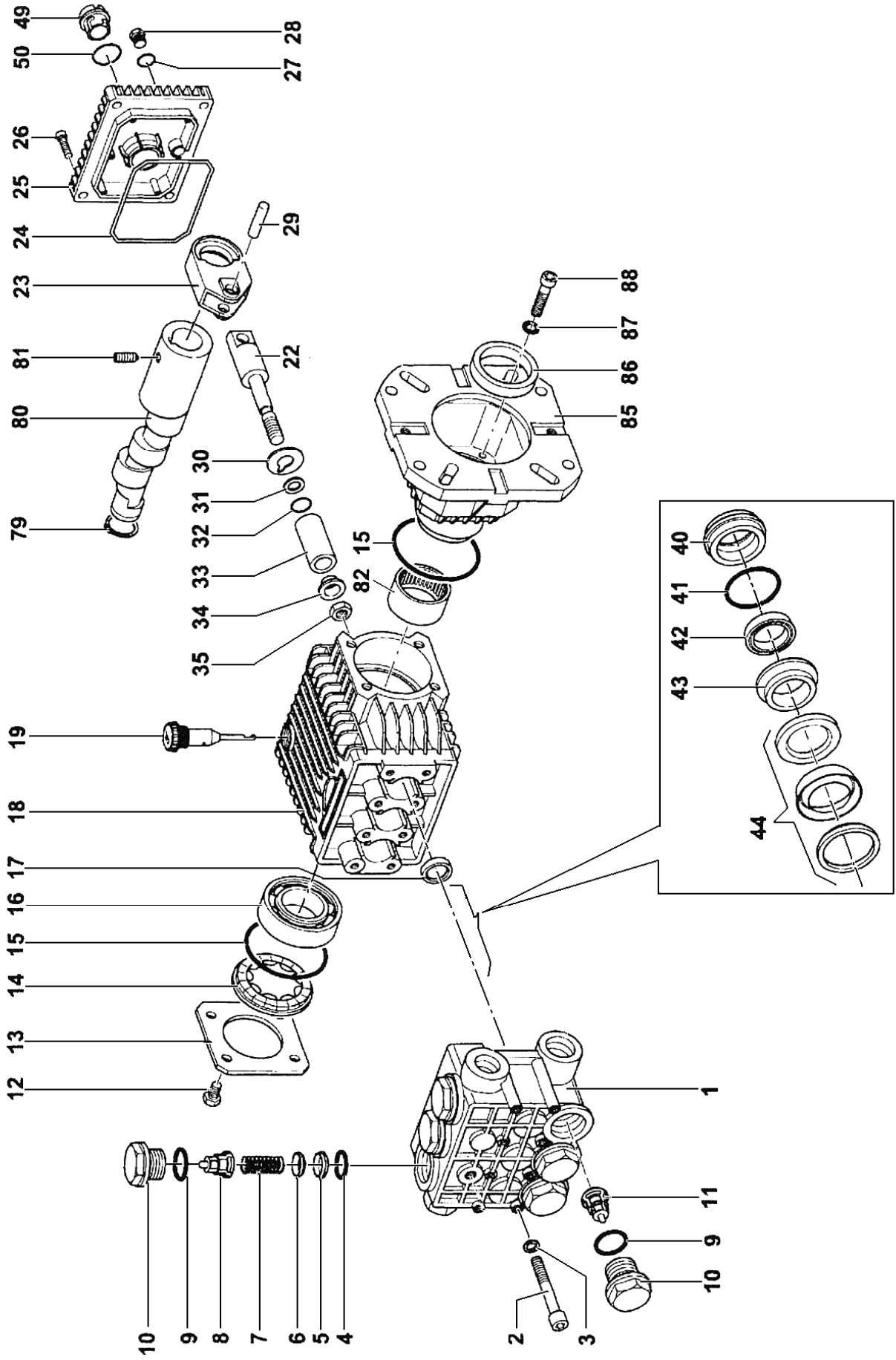
保証期間	当品のお買上げ日より1年間		
製品名	WZ15-150R	製造番号	
貴社名 電話			
販売店名 住所 電話			
販売日	年	月	日

万一、正常な使用状態にて故障が発生した場合には、弊社保証規定に基づき無償修理させていただきます。ご面倒でも、販売店又は、弊社サービス店までご連絡をお願いいたします。





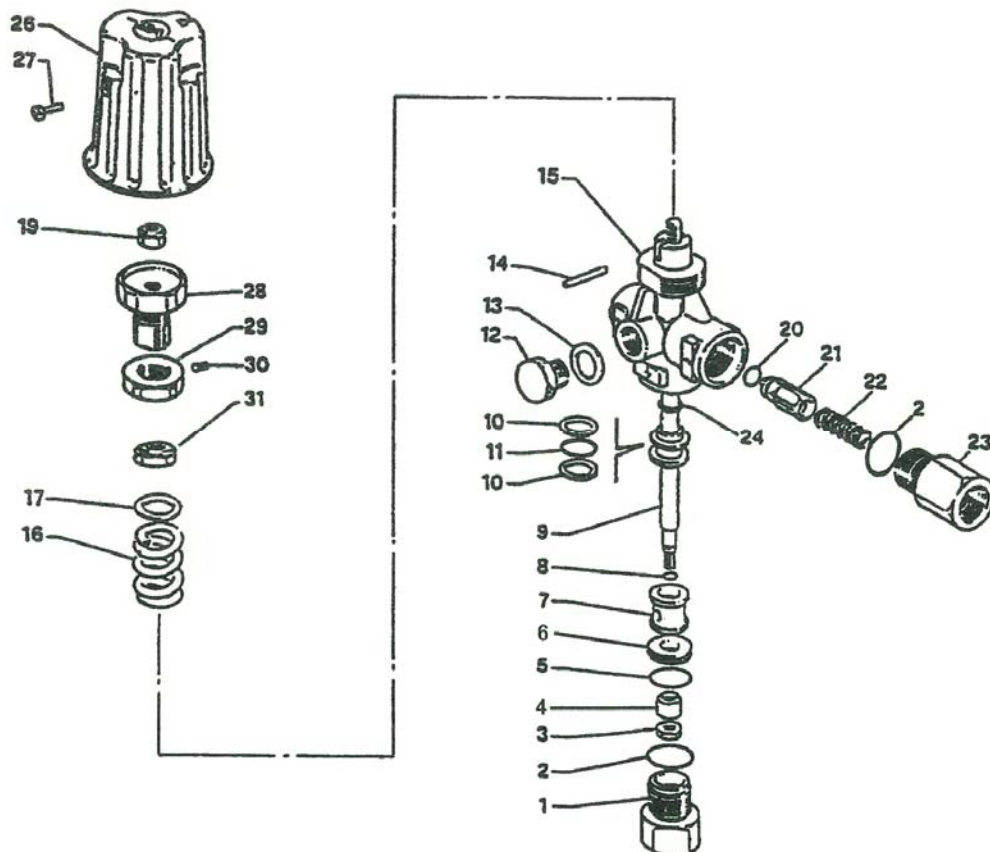
# ポンプ UH2014



# ポンプ UH2014

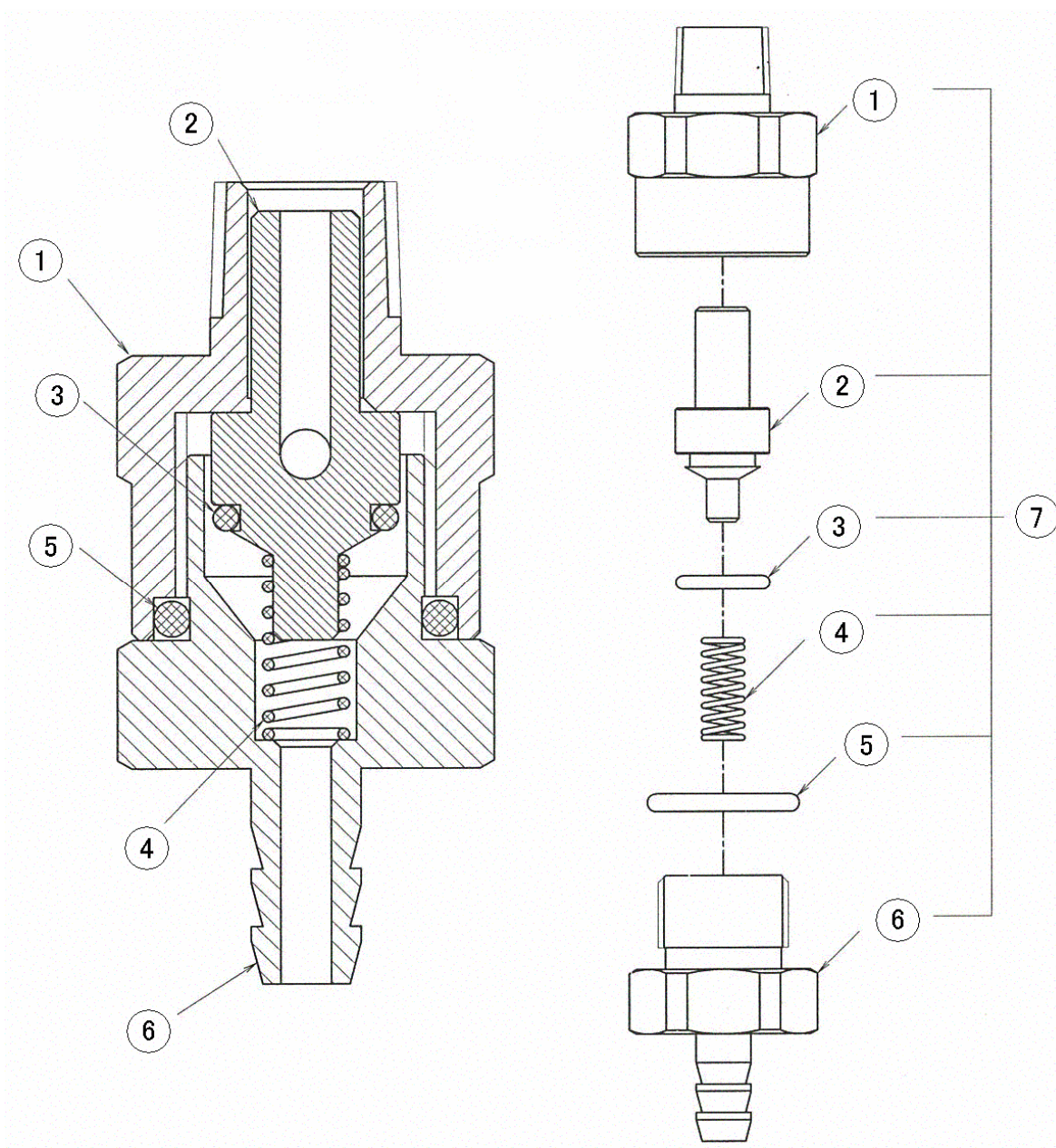
図番	wzコード	ftコード	品名	数量	備考
1		i63120041	マニホールド 15	1	
2		i99319200	CSボルト M8×65	8	
3		i96701400	ワッシャー 8	8	
4		B4711115	OR 2.62×17.12	6	AS115
5		i36200366	バルブシート	6	
6		i36200176	バルブ	6	
7		i94737600	バルブスプリング	6	
8		i36202551	バルブケージ	6	
9		B4711117	OR 2.62×20.29	6	AS117
10		i98222600	バルブプラグ	6	
11		i36711501	バルブAssy(4,5,6,7,8)	6	
12		i99180700	ボルト M6×10	4	
13		i50150074	ベアリングフランジ	1	
14		i44211801	オイルサイトグラス	1	
15		B470554	OR 3.53×55.56	2	
16		B480560	ベアリング	1	6305
17		B480020	オイルシール 18×26×6	3	
18		i63010022	クランクケース	1	
19		i98210300	オイルキャップ	1	
22		i63050066	プランジャーロッド	3	
23		i63030022	コネクティングロッド	3	
24		B471155	OR 2.62×101.27	1	AS155
25		i63160022	クランクケースカバー	1	
26		i99183700	CSボルト M6×14	4	
27		B471013	OR 1.78×10.82	1	AS013
28		i98204100	オイルドレインプラグ 1/4×9	1	
29		i97733500	コネクティングロッドピン 9× 27.5	3	
30		i96707500	ワッシャー 9×25×0.5	3	
31		i90502200	バックアップリング	3	
32		B471009	OR 1.78×5.28	3	AS009
33		i52040009	プランジャー 15	3	
34		i44211570	ワッシャー 8	3	
35		i92221600	プランジャー留めナット M8	3	
40		i63080070	パッキンリテーナー 15	3	
41		B471024	OR 1.78×28.3	3	AS024
42		i90260800	低圧シール 15	3	
43		i63216070	インターミディエイトリング 15	3	
44		i90261200	高圧シールAssy 15	3	
49		i63210051	オイルサイトグラス	1	
50		B471215	OR 3.53×26.58	1	AS215
79		i90063500	スナップリング	1	
80		i63028265	クランクシャフト UH2014	1	
81		i99179000	M6×6	1	
82		B480510	ニードルベアリング	1	HK4520
85		i10051822	エンジン取付フランジ	1	
86		B480120	オイルシール 45×62×9	1	AE2651A0
87		i96693800	ワッシャー 6	4	
88		i99191200	CSボルト M6×30	4	

# アンローダー VB9(P/N2510131)



図番	wzコード	ftコード	品名	数量	備考
1	2040045	P60220431	パイパスコネクター	1	
2	2152046	B471018	OR	2	1.78 × 18.77
3	2040047	P11454000	六角ナット	1	M6
4	2040048		シャッター	1	
5	2152049	B471016	OR	1	1.78 × 15.6
6	2040050		シート	1	
4+6		P60222120	バルブ+シート	1	
7	2040051	P60221031	スペーサー	1	
8	2152052	B470200	OR	1	4 × 1
9	2040053	P60220251	ピストン	1	
10	2152054	P10402100	バックアップリング	2	11.4 × 15.9
11	2152055	B471111	OR	1	2.62 × 10.77
12	2040056	P28001331	プラグ	1	
13	2040057	P14391100	シールワッシャー	1	
14	2040058	P15102100	ピン	1	
15	2040059	P60220135	ボディ	1	
16	2040060	P60220361	スプリング	1	
17	2040061	P60220884	ワッシャー	1	
19	2040063		六角ナット	1	M8廻り止め付
20	2152064	B470501	OR	1	3 × 6
21	2040065	P60005231	チェックバルブ	1	
22	2040066	P60005351	スプリング	1	
23	2040067	P60005831	アウトレットコネクタ	1	
24	2152068	B471109	バックアップリング	1	2.62 × 7.6
26	2040070	P60225184	キャップ	1	
27	2040071	P16183800	スクリュー	1	M4 × 10
28	2040072	P60225331	調整ナット	1	
29	2040073	P60225231	リング	1	
30	2040074	P16210500	六角穴付止めねじ	1	M5 × 6
31	2040075	P60220731	六角ナット	1	
	2152080	P60222624	リペアキット		

# 自動エア抜弁



図番	wzコード	ftコード	品名	数量	備考
1		F351901A	本体A(ネジ部PT1/4)	1	
2		F351902	ピストン	1	
3		B460007	OR (P9)	1	自動エア抜き弁用
4		F351904	スプリング	1	
5		B460016	OR (P16)	1	自動エア抜き弁用
6		F351903A	本体B (タケノコ 8.5)	1	
7		F351900	自動エア抜き弁セット	1	







---

本 社：〒574-0057 大阪府大東市新田西町 2-35 TEL.072-874-3561 FAX.072-874-3426  
札 幌：TEL.011-792-2897 名古屋：TEL.0562-98-8621 福 岡：TEL.092-472-5533  
FAX.011-792-2895 FAX.0562-98-8623 FAX.092-481-8206  
仙 台：TEL.022-742-3055 関 西：TEL.072-874-3561 鹿児島：TEL.099-265-3806  
FAX.022-742-3056 FAX.072-874-3426 FAX.099-265-3627  
関 東：TEL.042-379-1161  
FAX.042-379-1166

---

仕様・部品番号・価格は予告なく変更することがあります。